

資料第 3

日高町域における過去の被災概況

日高町は、平成 18 年 3 月 1 日、旧日高町と旧門別町の新設合併により設立されたものであり、旧町域における被災概況は資料編で整理することとし、被災状況は以下のとおりである。

なお、合併前の旧町における地域防災計画書より抜粋しているため、それぞれ異なった表現方法により表されている。

1 日高地区

発生日月	災害種別	災 害 の 概 況
昭和 6 年(1931) 6 月 1 日	山火事	強風、異常乾燥下の開墾の火入れにより、3 日間の山林火災、被害は山林焼失 2,000ha である。
昭和 22 年(1947) 5 月 27 日	大 火	異常乾燥下、日高市街地の家屋密集地から出火(火災発生と同時に風速 7 m の風により発生)した。 焼失 43 戸、罹災者 215 人、主な焼失公共建造物、役場庁舎、農協会事務所及び共間作業所並びに食糧営団事務所、代理配給所と食糧検査事務所
昭和 29 年(1954) 9 月 26 日	水 害	台風 15 号により、農作物の倒伏、家屋損壊、風倒木等の被害を生じ(特に、風倒木の発生は、その他の地すべり災害を誘発する原因となった。)、農作物の被害 754ha、立ち木被害 500 立方メートル、家屋全壊 32 戸、大破 4 戸、その他 16 戸
昭和 30 年(1955) 7 月 3 日	水 害	風速 15m 及び降雨量 132mm を伴った低気圧の通過により、国道決壊、橋りょう及び田畑の流出並びに家屋浸水等の被害があった。国道の決壊により、全町が 50 日間孤立した。 昭和 29 年の台風 15 号により、荒廃した山地の崩壊が河川をせき止め、被害を大きくした。 国道 237 号決壊 5 ケ所、農勝敗害 431ha、被災農家 228 戸、家屋全壊 43 戸、浸水 37 戸、橋梁被害 6 ケ所、道路被害 2 ケ所、河岸被害 8 ケ所
昭和 37 年(1962) 8 月 4 日	水 害	低気圧が 250mm 以上の集中豪雨をもたらし、各地で河川が氾濫し、死傷者のほか橋梁、田畑及び家屋の流出等の被害が発生した。千栄地区では、死傷者を出し、特に甚大な被害となった。死者 3 名、負傷者 3 名、家屋流出 11 戸、半壊 3 戸、浸水 84 戸、農業被害 112ha、橋梁 18 ケ所、道路被害 6 ケ所、河岸被害 100 ケ所、林業被害 8,500 立方メートル
昭和 41 年(1966) 3 月 30 日	水 害	沙流川のウエンザル北電取水堰堤において毎秒 1.5 t の流水が減少し、午前 10 時頃に流水が皆無となる。 前夜来の暴風雪により雪崩が発生し、河川を堰きとめているものと想定、千栄地区住民に避難命令を発する。(同堰堤地点で徐々に流水が増加したため、避難命令を解除) ヘリコプターにより、上空からの調査で流水の減少は、積雪下の各河川の流水が、雪に吸収されたものと認められた。
平成 4 年(1992) 8 月 1～11 日	水 害	台風 10 号から変わった温帯低気圧により、総雨量 231mm 最大 1 時間降雨量 32mm でありその結果、床上浸水 3 世帯、床下浸水 12 世帯、農業被害 23.1ha、農業施設等被害 5 ケ所、土木関係では、河川 16 件、道路 29 件、橋梁 5 件、その他土木関係 9 件、水産関係では虹鱒養魚族埋没等 2 件、林業関係では、林地 3 件、林道 20 件、衛生被害では 1 件、商工被害では 4 件、公立文教被害では 2 件、その他スキー場被害 14 件等で総額 645,361 千円の大規模災害が発生した。 町内の小河川等が氾濫し、町民生活に支障となる水道水源の混濁等により、9 日から 12 日まで水道が断水し、自衛隊第 7 特科連隊の支援を受け、延べ人員 60 名、車両 15 台、給水量 102 t、町民 950 世帯 2,500 名分の給水活動を行った。

発生年月日	災害種別	災 害 の 概 況
平成 9 年(1997) 8 月 9～10 日	水 害	温帯低気圧の通過による大雨災害が発生し、連続降雨量は 152.5mm、1 時間最大降雨量は 24mm となった。 床下浸水 1 世帯、農業被害では農地・農作物に 17.8ha、農業施設等 7 ケ所、土木関連では河川 12 ケ所、町道 17 路線で林業被害では、林道 6 路線、その他としてスキー場等被害が町内の至る箇所が発生し、被害総額 100,953 千円となった。
平成 11 年(1999) 7 月 29 日～8 月 2 日	水 害	温帯低気圧の通過による大雨災害が発生し、総雨量は 280mm となり、町道被害 6 路線、林道被害 6 路線農業被害 3 ケ所で被害総額 2,300 千円となった。
平成 13 年(2001) 8 月 22～23 日	水 害	台風 11 号の通過による大雨災害が発生し、被害としては土木被害が大半で、河川 2 件、町道 5 件の被害が発生し被害額は 6,740 千円であったが、地域住民が被害を被るような大規模災害の発生とはならなかった。
平成 13 年(2001) 9 月 11～12 日	水 害	台風 15 号の通過による大雨災害が発生し、農業施設被害が 4 件、土木被害では河川 16 件、道路 29 件、橋梁 2 件、林業被害では道有林 3 件、林道 11 件、その他被害としてスキー場 5 件、オートキャンプ場 5 件、その他 3 件の災害による被害が発生し、被害総額は 243,700 千円となった。 国道 237 号を横断する上水道横断管障害が発生し、市街地を中心とした上水道施設等被害発生より、自衛隊給水部隊延べ 2 日間車両 5 台、人員 15 人の派遣を受け、町民に対する給水活動を行った。
平成 15 年(2003) 7 月 10 日	川魚浮遊	北海道電力日高電力所からの通報で、岩内ダム堰堤等に川魚が死んで浮遊しているとの通報により、毒物等による死という可能性から現地確認を行った。事後水質等検査を実施したが毒物の混入・流出という結果はなく、高温気象による酸欠による死亡であるという結果となった。
平成 15 年(2003) 8 月 9～10 日	水 害	台風 10 号の通過と低気圧の停滞等により、総雨量 367.5mm という観測記録最大の降雨量となり、1 時間最大降雨量 45mm という予想を絶する未曾有の災害となった。その結果、工事現場見回りに赴いた建設会社員 2 名が深夜に行方不明となり人的被害が発生した。 行方不明者捜索活動が広範囲に実施され、行方不明者 1 名が 8 月 26 日 25km 下流の平取町管内で発見されるが、1 名は依然として行方不明である。 物的被害としては、床上浸水 2 世帯、床下浸水 26 世帯、農業被害 74ha、農業施設等被害 53 ケ所、土木関係では、河川 26 件、道路 78 件、橋梁 7 件、水産関係では虹鱒養魚池埋没等 1 件、林業関係では、林地 18 件、治山施設 46 件、林道 63 件、その他 9 件、衛生被害では水道 1 件、商工被害では商業 2 件、工業 2 件、その他 10 件、その他としては、スキー場被害、下水道被害、地籍三角点被害で総額 1,211,538 千円の当町災害史上最大規模の災害が発生した。千栄簡易水道障害が発生し、千栄地区一帯に対し 8 月 10 日から 12 日まで自衛隊給水部隊延べ 3 日間車両 15 台、人員 55 人の派遣を受け、千栄地区の町民 70 世帯分、人員 120 人分の給水活動を行った。
平成 15 年(2003) 10 月 5 日	土砂崩れ	台風 10 号による大雨災害による行方不明者の最終段階での広範囲な捜索活動を展開していた最中に、十勝沖地震が発生し、前日から日高山系のチロロ岳に数パーティが登山しているという情報とともに下山者から「土砂崩れが発生している」という通報により、登山者が土砂崩れに巻き込まれている可能性もあるという観点から、道警察ヘリコプターの運行確認とともに現地確認をした結果、極く小規模のものであり被災者等なかった。

発生年月日	災害種別	災 害 の 概 況
平成 16 年(2004) 2 月 23 日	着 氷 (湿雪)	前日から低気圧が北海道を通過するにあたり、降雪、みぞれ、雨、強風等が複合的な悪条件が重なり、町内特に三岩から富岡地区にかけての沙流川周辺の樹木への湿った雪等が着氷したことにより、シラカバ等の殆どが折損する等、町有林・民有林等被害が発生し、被害総額は 100,000 千円を越えた。
平成 16 年(2004) 9 月 21 日	風 害	台風 18 号が北海道南西部通過時の台風の吹き込む南西風(突風)により、町内各所で家屋施設やそれに付随する物置や車庫・倒木被害が発生した。 人的被害はないが、物的被害として、住家被害(一部損壊) 1 世帯 1 名、農作物 10.9ha、1,087 千円、営農施設 69 ヶ所 12,876 千円、水産被害その他 1 ヶ所 100 千円、林業被害(一般民有林～林地) 7 ヶ所 9,695 千円、商工被害では、12 件 1,586 千円、社会教育施設 2 件 110 千円、その他被害ではテレビ共聴施設 1 件 200 千円、非住家一部損壊 20 件 1,862 千円で被害総額 123.9 件 27,536 千円で近年稀にみる台風に吹き込む風害であった。 この風害により、市街地等を含む地域で送電線障害や倒木による障害等でおよそ 1 時間程度の停電が発生したが、大きなライフラインの障害には至らなかった。更に、この風害で国道 274 号日勝峠において倒木による車両通行止め規制が同日午後 3 時から翌朝午前 7 時まで実施された。

2 門別地区

(1) 地震による被害

発生年月日	震源地	マグニチュード	町内震度	被害概要
昭和 8 年(1933) 3 月 3 日	三陸沖	8.1	4	地震による被害は少ない。三陸地方で壁の亀裂、崖崩れ、石垣・堤防の決壊があった程度。震度約 30 分～1 時間の間に津波が北海道・三陸の沿岸を襲い大きな被害がでた。町における津波の高さは賀張で 1.8m、慶能舞川で 1.5m、波恵川で 1.5m という数字が記録されている。
昭和 27 年(1952) 3 月 4 日	十勝沖	8.2	5	十勝沖地震。十勝川・大津川下流域は震害が最大で、大津・浦幌・豊頃では全半壊家屋が 50%に達した。津波は浜中・厚岸で被害が最大で、一般に波高は北海道で 3m前後に達した。町内では負傷者 14 人、家屋全壊 8 戸、半壊 23 戸、小壊 38 戸、工場、道路、橋梁等被害総額 167,145 千円。
昭和 35 年(1960) 5 月 23 日	チリ沖	9.5		地震の翌日 2 時 20 分ころから津波が日本各地の海岸に達し、死者 119 名、行方不明 20 名、負傷者 872 名、全壊流失家屋 2,830 棟、床上浸水 19,863 棟、その他、船舶、鉄道通信施設、田畑、木材、養殖真珠のいかだなど多大な被害を受けた。北海道南東沿岸および岩手、官城の三陸沿岸での被害が大きかった。町内では門別沙流で定置漁場の一部が破損した。
昭和 43 年(1968) 5 月 16 日	十勝沖	7.9	5	被害は北海道・青森・岩手を主とし南は埼玉にまで及んだ。津波が太平洋沿岸の各地を襲い、浅海漁業施設に被害を及ぼし(北海道・青森・岩手)、浸水家屋を出した。この地震の直後から十勝岳の地震活動が活発化。崖崩れ、低湿地・軟弱地盤・老朽化屋などでの住家被害。豊郷第一区では液状化現象も発生。 町内では負傷者 7 人、家屋全壊 2 棟、半壊 5 棟、一部破損 190 戸、被害総額 109,435 千円。

発生年月日	震源地	マグニチュード	町内震度	被害概要
平成 5 年(1993) 1 月 15 日	釧路沖	7.8	4	釧路・十勝で被害が大きかった。町内では家屋の一部破損 10 戸、農業被害 210,000 千円、商工被害 9,608 千円。
平成 15 年(2005) 9 月 26 日	十勝沖	8.0	5 強	4 時 50 分頃、釧路沖を震源とする地震が発生し、釧路町や新冠町など広範囲で震度 6 弱を観測、百人浜では 3.8m の津波を観測した。 町内では重傷者 6 名、軽傷者 17 名、家屋一部損壊 14 戸、道路損壊 9 箇所、商工業被害 99 箇所、被害総額 112,912 千円。門別川河口などで 1.9m の津波痕跡が観測された。 命名：「平成 15 年(2003 年)十勝沖地震」

(2) 風水による被害

発生年月日	災害の種類	雨量(mm)	被害状況	農業被害(ha)	被害額(千円)	備考
昭和 37 年 (1962) 8 月 3～4 日	大雨 (台風 9 号)	109.2	床上浸水 58 戸 床下浸水 87 戸 河川 114 箇所 橋梁 15 箇所 道路 29 箇所 山くずれ 5 箇所	470.0	462,914	非住家被害 82 戸
昭和 40 年 (1965) 9 月 10 日	大雨 (台風 23 号)		全壊 1 戸 半壊 2 戸 床上浸水 3 戸 床下浸水 12 戸 冠水 430ha			
昭和 41 年 (1966) 8 月 17 日	大雨	173.0	床上浸水 6 戸 床下浸水 127 戸 流失埋没 75ha 浸水 75ha 冠水 163ha 河川 120 箇所 橋梁 9 箇所 道路 10 箇所		258,234	
昭和 41 年 (1966) 11 月 21 日	竜巻		全壊 1 戸		1,349	非住家全壊 6 棟、半壊 3 棟
昭和 45 年 (1970) 1 月 31 日	猛吹雪		負傷者 1 人 床上浸水 11 戸 床下浸水 13 戸		74,000	最大瞬間風速 30.0(m/s) 磯舟流失 8 隻、破損 6 隻
昭和 45 年 (1970) 3 月 16 日	大雨 融雪		床上浸水 14 戸 床下浸水 38 戸			
昭和 45 年 (1970) 5 月 11～13 日	暴風雨 ・波浪		床下浸水 7 棟 河川 97 箇所 橋梁 12 箇所 道路 4 箇所		205,856	農業被害額 1,606 千円

発生年月日	災害の種類	雨量(mm)	被害状況	農業被害(ha)	被害額(千円)	備考
昭和46年 (1971) 9月12～13日	大雨 (台風26号)		負傷者 1人 床上浸水 16棟 床下浸水 29棟		67,710	漁業被害大
昭和47年 (1972) 9月15～20日	大雨 (台風20号)		床上浸水 3棟		259,100	農業・水産・清 島海岸・厚賀漁 港・七草原木板 材・治山被害
昭和48年 (1973) 9月1～3日	大雨 (台風23号)		床上浸水 6戸 床下浸水 33戸 河川 61箇所 橋梁 12箇所 道路 50箇所	82.0	278,322	
昭和50年 (1975) 8月22～24日	大雨	124.0	床上浸水 2棟 床下浸水 13棟		348,897	行方不明1名 土木被害額 342,000千円
昭和51年 (1976) 10月21日	集中 豪雨		全壊 2棟 床上浸水 23戸 床下浸水 52戸 河川 107箇所 橋梁 8箇所 道路 18箇所	5.2	1,626, 730	
昭和53年 (1978) 6月20～21日	大雨	97.0	床下浸水 5戸		441,604	農業・上木被害、 町営球場土砂崩 壊
昭和54年 (1979) 4月8～9日	大雨 融雪		床上浸水 1戸		64,700	土木被害額 62,900千円
昭和54年 (1979) 10月19～20日	大雨 (台風20号)	86.0			645,296	国鉄路線・汐見 一宮川間，路盤 流失 80m にわた り宙づり，床上 浸水，水産被害
昭和55年 (1980) 10月31日	竜巻		全壊 1戸 半壊 2戸 一部損壊 25戸		22,578	非住家全壊6棟、 半壊6棟
昭和56年 (1981) 7月5～6日	大雨	148.0	床上浸水 1戸 床下浸水 6戸 河川 34箇所 橋梁 4箇所 道路 15箇所 農業用施 20箇所	139.0	1,076, 087	農業被害額 819,667千円 林業被害額 50,550千円

発生年月日	災害の種類	雨量(mm)	被害状況	農業被害(ha)	被害額(千円)	備考
昭和56年 (1981) 8月5日	大雨	300.0	死者 1人 負傷者 5人 全壊 32戸 半壊 13戸 一部破損 23戸 床上浸水 173戸 床下浸水 491戸 河川 215箇所 橋梁 14箇所 道路 195箇所 海岸 4箇所 農業用施設 603箇所 商工関係 18箇所	2,482.8	16,102,939	非住家全壊45棟 、半壊21棟 農業・林業被害
昭和56年 (1981) 8月23日	大雨 (台風15号)	83.0	負傷者 4人 半壊 15戸 一部損壊 103戸 床上浸水 2戸 床下浸水 43戸		900,148	非住家全壊17棟 、半壊21棟 農業, 農業施設 、林業. 海岸被害
平成4年 (1992) 8月8日	大雨	183.0	半壊 1戸 一部損壊 2戸 床上浸水 41戸 床下浸水 43戸 河川 67箇所 橋梁 3箇所 道路 123箇所 農業用施設 128箇所 商工関係 9箇所	503.8	2,857,590	非住家全壊1棟 農業被害 1,944,010千円
平成7年 (1995) 8月9日	大雨		床下浸水 30戸 河川 1箇所 道路 4箇所 農業用施設 22箇所 商工関係 1箇所		544,800	林業施設被害 2件
平成7年 (1995) 8月21日	大雨		床上浸水 1戸 床下浸水 40戸 河川 14箇所 道路 37箇所 農業用施設 1箇所 商工関係 2箇所	0.5	191,039	衛生施設被害 1件 林業施設被害 4件
平成9年 (1997) 8月9～10日	大雨	219.0	床上浸水 2戸 床下浸水 40戸 河川 2箇所 道路 14箇所 農業用施設 9箇所 水産関係 1箇所 林業関係 3箇所 文教施設 1箇所 都市架設 2箇所 水道施設 1箇所	27.3	561,739	
平成10年 (1998) 5月2日	大雨	85.0	農業用施設 8箇所 河川 3箇所 道路 1箇所		197,500	

発生年月日	災害の種類	雨量(mm)	被害状況	農業被害(ha)	被害額(千円)	備考
平成 11 年 (1999) 5 月 5 日	大雨	120.0	床下浸水 3 戸 河川 9 箇所 道路 1 箇所 農業用施設 5 箇所		200,000	
平成 12 年 (2000) 5 月 12 日	大雨		床下浸水 2 戸 河川 13 箇所 道路 15 箇所 農業用施設 11 箇所	285.0	193,800	
平成 13 年 (2001) 9 月 11～12 日	大雨 (台風 15 号)	292.0	床上浸水 8 戸 床下浸水 54 戸 河川 79 箇所 道路 171 箇所 橋梁 1 箇所 農業用施設 20 箇所 水産関係 3 箇所 林業関係 40 箇所 水道施設 6 箇所 商工関係 3 箇所 文教施設 2 箇所	285.0	1,243,833	非住家政害 62 箇所
平成 15 年 (2003) 8 月 9～10 日	大雨 (台風 10 号)	334.0	死者 3 名 重傷者 1 名 全壊 7 戸 半壊 6 戸 一部損壊 16 戸 床上浸水 34 戸 床下浸水 148 戸 河川 141 箇所 道路 185 箇所 橋梁 7 箇所 農業用施設 23 箇所 水産関係 35 箇所 林業関係 169 箇所 水道施設 7 箇所 商工関係 22 箇所 文教施設 5 箇所 社教施設 2 箇所	2,454.0	18,255,556	最大降水： 9 日 23 時～10 日 0 時 47mm 増水した厚別川 に車ごと流され 新冠町の町民が 水死した。 非住家全壊 7 戸 農業被害 6,572,856 千円 土木被害 7,519,800 千円 林業被害 3,556,352 千円 10 月 3 日：激甚災 害指定
平成 16 年 (2004) 10 月 22 日	竜巻		半壊 4 戸 一部損壊 11 戸 農業被害 1 箇所 商工被害 1 箇所		18,074	非住家損壊 14 戸

(3) 地震・風水以外による被害

発生年月日	災害の種類	雨量(mm)	被害状況	農業被害(ha)	被害額(千円)	備考
平成 5 年 (1993)	低温					凶作収穫皆無に 等しい